

横浜市小学校社会科研究会

3学年部会

研修会記録

第 7 号

令和5年 1月 10日

横浜市小学校教育研究会

会長 濱田 哲也

横浜市小学校社会科研究会

会長 加藤 和之

同 学年部長 権正 倫範

【提案日時】

12月 6日 (水)

提案 北沢 宏 先生 (間門小)

【会 場】

横浜市立間門小学校

司会 谷川 知栄子先生 (日枝小)

記録 佐々木 貴弘先生 (鴨居小)

1 提案内容 单元名

单元名「市の様子の移り変わり～埋め立てられた海と人々の思い～」

2 提案者より

○自評

視点①子どもが問いや見通しをもち、主体的に学ぶ单元づくり

子どもたちの身近な材からスタートする

- ・市の移り変わりを学習するにあたって、子どもたちの実態から、間門のまちを材に、市の発展をみた上で、市の移り変わりに関心をもてるのではないかと考え、单元を構成した。

視点②個を生かし、協働的に学びを深めるための手だて

様々な視点で材を考える

- ・子どもたちは自分の考えをもって授業に臨んでいた。そのためか、友だちの考えを聞くというよりは考えの発表のようになってしまう時間が長かったように思う。教師がもっと子どもたちの考えをつないでいく働きができればよかった。

「どうして」を深める資料の提示のタイミング

- ・22児が市の発展についての発言をしたあたりで資料を出そうと計画していた。結果的に資料提示のタイミングが遅くなってしまった。ふり返りの時間を十分にとれなかったことも反省である。

3 協議会

質問

- ・子どもたちが話を聞いたIさんはどのような立場で前時に話があったか？

→Iさん自身は反対だった。自分は漁師を続けたかった。当時は漁師の中でも賛成と反対は半々だったが、海を埋め立てることになり、とても悲しかったと話されていた。

「漁師さんが願った横浜市になっていたのだろうか」という問いを見いだしたかったが、難しかった。

視点①子どもが問いや見通しをもち、主体的に学ぶ单元づくり

- ・身近な地域の変化から横浜の変化を考えていく流れは子どもがとても考えやすい。

視点②協働的に学びを深めるための手だて

- ・本気の学習問題を「どうしてIさんは反対していたけれど、埋め立てに賛成したのだろうか」のような形にすれば、次につながる言葉でまとめられるのではないかと。

- ・「市民側」と「漁師側」、それぞれの立場で考えを焦点化させると考えの変化や立場がわかりやすくなる。
- ・石碑の資料がとてもよい。賛成・反対のどちらかに揃える必要はない。
- ・「まとめ」をどうすればよかったか。「どちらでもよい」ではない言葉で。
- ・「発展」に対するとらえ方。どのようになることを発展ととらえるか。
- ・子どもの考えが揺れ動いている場面が見られた。
- ・立場を明確にしてメリット、デメリットなどの視点で整理してみてもよいのではないか。
- ・授業者としてはどちらかに結論を出すことが目的ではないと言っていたが、結果としては埋め立てが発展につながっていったことは関連付けて明確にしておくべきだった。

<講師の先生より>

○日枝小学校 加藤 智敏 校長先生

- ・自分たちで学びをつくっていきたいという思いが伝わる。
- ・相手の話を聞いて理由をしっかりとっている。
- ・26児の発言を9児、28児がうまく拾っていくことで変容していったことが分かる。
- ・発展していったことを考えるとき、点で考えてしまっていることをつないでいく視点が必要になる。
- ・自分にしか語れないエピソードをいくつ授業で語れるか。
- ・子どもたちが活躍できる場がある授業を。

○國學院大學 人間開発学部 初等教育学科 教授 小笠原優子 先生

- ・「人々の思い」の「人々」とは誰か。それはどんな思いか。昔から生きている人々が生きてきた中で、様々な思いが移り変わってきている。そこを気づかせたい。
- ・子どもたちが昔と今の間門を見て、何を思うか。昔を生きてきた間門の人の様々な思いをたくさん集め、比べられるようにしていくことはとても大切。
- ・「どうして海を埋め立ててしまったのか」のような学習問題でもよかったのでは。答えがすぐに出ないような学習問題は魅力的かもしれないが、賛成・反対を決めたかったわけではない。
- ・毎時間の学習問題をしっかりとらせているのがよい。ここから交通、土地利用、人口の移り変わりにつなげていかなければならない。
- ・例えば根岸線。これができることで工業団地ができ、変わっていく。交通や人口の変化などすべてがつながっている。
- ・「どうして？」を深める資料提示のタイミング。
- ・横浜の埋め立ての範囲は鶴見以外は、間門から始まっている。3年生が根拠をもって話せる材、資料をしっかりと選んでほしい。
- ・しっかり協働的な学びができる授業を。たくさん交流してほしい。感性も交流してほしい。
- ・地域の身近な材に気づく目を教師がもってほしい。

文責 小池 智宏 (鴨志田第一小学校)